ほんにかえるプロジェクト　会報　　2016 年 1 月創刊

かえるのうた

第 17 号　2019・7 月

画：　T・Y

ほんにかえるプロジェクト発行
汪楠責任編集

つゆ空に　陽光ありて　我が内に

ふとよみがえる　束の間の調べ

代表　　田中　伸彦

いつの間にか季節が巡り、六月の空を梅雨雲が覆い、しばらくは鬱陶しい日々が続きそうです。
内部会員の方々も外部のサポーターの皆様も季節の変わり目、体調に留意されてお過ごし下さい。

私が日常の活動で関わっている路上暮らしの人々にとっても、この梅雨の季節は、夜を過ごす場所を確保するのは大変なようです。
移り変わって行く四季。
その中で織りなす自然の様々な姿は、この惑星で生を営むあらゆる植物や動物の必死に生きようとする力や、希望や絶望を全て受け入れて“時”を刻み続けているように思われ、私には自然の持つ大きな意思を表していると思われます。

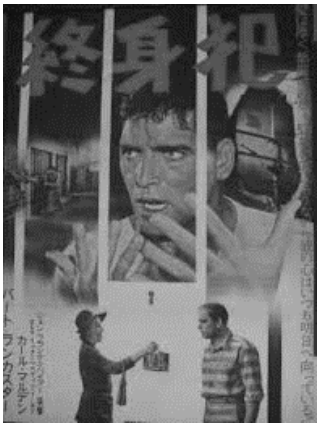
六月の雨に時おり無情を感じる事も、また恵みの雨と受け止める思いが生まれる事もあるでしょう。
それぞれの人のそれぞれの営みには自分の意志や努力ではどうにも越え難い障壁が立ちはだかる刹那があるようです。
そんな時、そのやりきれなさを“ほんにかえるプロジェクト”から送られた書籍や手紙で、ひと時でも癒され、気持ちが和むことがあるなら私たちプロジェクトの活動に”梅雨晴れ”のような明るさと希望がもたらされると願っています。

何処からか　昔聞いたことのある詩句が浮かんで来ます。
「人が最期にかかる病、それはしばしば希望と言う名で呼ばれる」

受け入れ難い事柄、耳を塞ぎたくなるような声音や深い溜息。
それでも人は足元を見つめ、夕暮れの驟雨の中で
「私は誰？何処に行こうとしているのか？」
と小さく問いかけてみる。

ああ、それにしても六月の雨に
紫陽花はとてもよく似合っている

映画【終身犯】を観て



汪 楠

この映画を知ったのは自分が受刑していた時でした。刑務所内でも月に一回は「工場就業者VTR」と称して、三分の二の受刑者を対象に映画を放映しますが、刑務所の在り方を問うこのような作品は選ばれるはずもない。

あらすじ

主人公の終身犯ストラウドは、他人への対処の仕方、付き合い方が下手な男ゆえに、結果だけで世間から悪人と見なされてしまう不幸な男。獄中でスズメやカナリヤなど小鳥の飼育を始め、その生態研究に励み、カナリヤの熱病の治療法発見へと能力を発揮していくストラウドは、愛鳥家の未亡人との出会いから獄中結婚へと進展。しかし、やっと人間性に目覚めたストラウドはアルカトラズ刑務所へ移送され、ここでの囚人の扱いに疑問を抱いた彼は刑務所改善の論文を発表する。(amazon.co.jp から転載)

この映画のもっとも感動する場面は受刑者の主人公と刑務所長が更生とは何かを話すシーンである。

ストラウド「更生？」
シューメイカー所長「ああそうだ」
ストラウド「(更生の)意味を知っているのか？」
シューメイカー所長「私を侮辱するのか」
ストラウド「ウェブスターの辞典には語源はラテン語とあった。本来は“失った尊厳を回復する”を意味する。囚人の名誉や尊厳を回復する努力をしたか？“素行を正せ”という昔のあんたの声はよく覚えている。“行動は全て規則に従え”とな。あんたの方針は35年間変わっていない。囚人は操り人形じゃない。服従するものをひいきし、自分と同じ迎合主義者を好むなど倫理にもとる。最低だよ。所長失格だ。囚人のいちばん大切なもの、尊厳を奪った。囚人はおとなしい人形のふりをしているが、心の中は日々憎悪が募ってる。釈放された囚人の半数以上が再び投獄されてくる。理由はここに書いた、あんたも最後までよく読むといい」

いや～、しびれちゃいますね。この会話、まさに私が刑務官に世に訴えたいものである。服従させるだけではだめなんだよ。人間は自分で考え行動しようと(自己決定)する存在である。その考える部分を奪い、行動だけを強要しても納得できないんだよ。それが岡本茂樹著「反省させると犯罪者になります」が訴えている、表面的な反省だけを強要すると反省するふりだけをして、すぐに再犯してしまうぞという考え方にも通じる。また、憲法っぽく言えば、受刑者

でも思想・良心の自由があり、人の内面的な活動である世界観、人生観、政治思想まで押しつけられる筋合いはない。

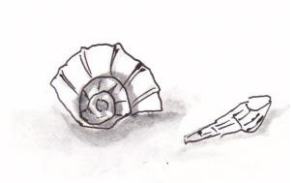
しかし、すごい映画である。1962 年に作られたにも関わらず、今も存在する問題を提起している。解釈の仕方にもよるでしょうけど、少なくとも日本の刑務所は未だにシューメイカー所長式に固執していて、刑務所の中をきれいにすると称して教養あるいは文化的なところをどんどん排除していく。小鳥を飼えないのはもちろん、落ち葉をしおりにでもしようとすれば、物品隠匿、不正持ち込み、物品使用目的外使用といった容疑名で厳しく罰せられる。壁にはポスターどころか、家族の写真ですら飾れず、家族の写真を所持する許可を与えるものの、飾るのには模範囚になって、そのご褒美として飾らせていただくルールである。

日本の刑務所の一番の問題点はまさに服従を強要し、個の尊厳を奪うことにだけ力を入れている。裸で検身（けんしんと打ち込んでも漢字変換されないのは、やはり検身は一般に使われていない言葉でしょうね、ボディチェックの意味）、軍隊式行進、坊主頭、消化できない麦飯。屈辱を与えることを使命と思い込んでいる。どれだけ日本の刑務所が時代錯誤しているか。

個人的にさらに興味深かったのは実在したこの R・ストラウドさん（1887～1963）、ぽん引きしていたときのトラブルで殺人を犯し、12 年の刑で服役中に看守を刺殺して、最終的には終身刑になったようです。私が岐阜でお勤めの時にある 70 代の無期囚と仲良しになった。彼も風俗業で女性従業員を殺してしまい、刑務所に入った。彼は小鳥の研究はしなかったが、独学で法律を学び、国賠訴訟を本人だけで起こし、勝った男です。それは偏屈でしたよ。典型的な囚人で、強迫観念が強く、日常のことは全て昨日のままで進行しないと気がすまない人でした。そんな彼は傲慢な刑務官ととことん戦い、多くの犠牲を払った。その彼が過去の事件を振り返る余裕もないまま、約 30 年の刑務所生活を送ってきた。偏屈で、保守思想なのに反刑務官、そして将棋にしか興味を示さない彼とは誰も仲よくできなかった。変わり者の私だけがプロ級に強い彼を将棋に誘い、見事に連敗した。彼は私に興味を示し、「僅差でも私に勝てないとわかっていてなぜ私とやろうとするのか？」と聞いてきた。私は答えない。「私が将棋大好きなのに、指してくれる人がいないのだよ、あなたは優しいね」とさらに探りを入れ、同情もされたくない雰囲気でした。私はその後、彼に言った、あなたのことを知りたい、事件のことも聞かせてほしいと。彼は三日後に話し始めた。それまでと打って変わって、彼は堰が切れたように自分のことを話し、日に日に被害者に対してのプラスの感情を口にするようになった。ある日、彼はこのやり取りはなんという手法だと聞いてきた。その時の私は答えられなかったけど、今なら言える。誰にも相手にされない彼は将棋を通じて部分的とはいえ、尊厳を回復したからこそ、私に事件のことを話す気になったと思う。彼の非に対して、私は責めるというよりも、彼の目指す自己の理想像のようなものとの差異

を指摘したとき、彼は一日遅れで時には非を認め、時には反論もした。私も思った。私は反省したんだろうか。反省という概念にしたという過去形は存在しないと考える私ですが、 仮に私が反省しているとしたら、それもやはり私の話を聞いてくれる人がいたおかげだと思う。映画を見て改めて家族や支援者の皆様への感謝の気持ちを持ちました。
ありがとうございます。

ひ ろ う



Gabrielaiko Ide s.c.q.

素性がいやしいのか、「ひろう」といわれて最初に思い浮かんだのは、お金だった。いったい、これまでどれくらい拾ったのだろう。

小学生の頃、映画館で折りたたんだ紙幣とコイン数個。中高生の頃、家の玄関先の庭石に、やはり折りたたんだ紙幣と、置かれたような数個のコイン。しかも、二日続けて同じことがあった。

家族は誰も知らないと言う。不思議なことがあるものだ。机の上に並べて、いつ葉っぱにもどるのか観ていたが、もどらない。

シスターになって、2回ほどお財布をひろった。1回目は、持ち主に直接連絡して返した。2回目は交番に届けた。3回目は帯封のかかった100万円札を、拾ったのではなく、正確に言えば見つけた。悪魔がささやく。黙っていれば「誰にも解らないよ、いいことができるよ！？ 」 一瞬のためらいの後、「あぁそう。100万なくても、いいことできるわよ」と応えて、持ち主を捜しお返しした。とても喜ばれた。

遠い祖先の採集生活の DNA がなせる業か、「ひろう」のが好きだ。山に行けば木の実をひろう。茶畑では茶の実を摘んだ。山小屋からは小鳥の巣を持ち帰って、イエス様の馬槽（まぶね）にして、ひとり悦にいっていた。

海では、波打ち際に打ち寄せられた貝殻をひろった。場所と季節によって種類も異なる。どんぐりや桜貝などが部屋のあちこちにある。捨てても、なんとなくまた集まってくる。集めているのはもちろん私、何故。どうやら、それらが在ると私の意識の深みで“安定”を醸成しているようなのだ。数百万年の連綿とした“命”が遺産として刻まれ、流れているからだろうか。中国人の3歳の坊やが「おねえさん、これなに？」と小さな瓶を

とりあげる。「桜貝っていうのよ」「ううん、これなに？」「お姉さんの青春の思い出なの」「うん」。子供は意味を問う。

断言しよう。ほかに、私には大きなひろいものが二つある。一つは海辺で拾った小さな小石。初めて40日間の黙想（祈り）にあずかった夏。祈りに疲れて石ころと海だけの海岸を散策した。小さな石を拾い、水切りをして遊んだ。小石は小さな水飛沫をあげて海面を飛んで海に消えた。陸上に在った石が海底に沈み、おそらく半永久的に、そこに在るのだろう。“すまない“と思った。

私はあの小石でもよかったのに！と思った瞬間、雷に打たれたような衝撃が走った。

宇宙万物は創造者の計り知れない知恵によって創られた。あるものは石に花に猫に人に。石に造られても当然な私が、生きて“愛”に触れ得た。そういう存在をいただいたことの尊さに拓かれた体験だった。そこはかとなく涌きでる感謝と、己の罪性の深さを見せられた。伏し拝まざるをえない体験だった。導師は小石。

二つめは花梨の実。これも京都での黙想の体験。なかなか祈りにはいれず、混乱を極めていた。文字が読めない、講話が聞きとれない、聖書の箇所が探せない、劣等生の感覚。そのうえ、指導者からの厳しいご注意。寄る辺ない孤独。小さな湧き水の流れに青いミズゴケの繊毛がゆれている。せめて、あのミズゴケであったなら、いっときの安らぎを、見る人に与えられるだろうに、と真剣に考えている自分に気づき、唖然とした。存在の基盤を掬われたかのような価値の喪失。それほど厳しい状況だった。

庭に大きな3本の花梨の木があった。芳香性の強い実をつける。私が捨てられていない証拠にその実をください、と両手を高くさしあげた。もちろん、ただの一つも落ちてはこなかった。しかし、落胆のかわりに”明日”という不思議な確信に支えられて眠りについた。

次の朝、自然に花梨の木に向かっていた。木からかなり離れた垣根の下草の上に、黄色い実が1コ、まるで置かれたかのように落ちているのが見えた。ハンカチに包んで抱きかかえるようにして、部屋に持ち帰った。孤軍奮闘、意気消沈の私が、崩れそうになると、ふくよかな花梨の香気が部屋に流れる。聖霊と聖母が香に溶けこんで、私を包んでくださっているかのようだ。すてられてはいない。すてるものか。

花梨の実を持ち帰り、発芽させて庭に植えた。2メートルを越すほどに成長したが、まだほっそりとしている。いつになったら、あの実をつけるのだろう。

お札の拾い物は一過性のできごとに過ぎなかった。しかし、小石と花梨は私の存在の深みと高みに影響を与え続け、私を新しい道に導いていく。

三つ目のひろいものはなんだろう。

日本の生活と共にある和菓子

その歴史　連載第２回　作田ゆう子

日本の砂糖は、約 2,500 年前にインドネシアで発見され、インドで発展したといわ れています。しかし、正倉院御物の中に記述はありますが、日本にある程度まとまった量が入ってきたのは、遣唐使を通じてでした。

それまでは、ツタなどの木の樹液を採集して煮詰めた甘葛（あまづら）などが、貴族の間だけで大変 貴重な甘味料として使われていたのです。

珍品・高貴薬としての砂糖とお菓子

奈良時代の砂糖の伝来後も、砂糖の入った和菓子が、庶民の暮らしの中に気軽に入ってくるのには、19 世紀の江戸時代末期を待たなければなりません。で は、砂糖と和菓子の歴史を見てまいりましょう。

【唐菓子の伝来ー奈良・平安のお菓子】

奈良時代から行われた遣唐使のもたらしたものに、唐菓子があります。それ までの日本の菓子には使わなかった、①小麦粉②砂糖③小豆を使い、蒸したり 焼いたり、揚げ物などにしたお菓子です。これら小麦粉と砂糖と小豆という３っつの材料が導入されたことは、現代の鯛焼きにもつながる、和菓子の歴史上 の一大事件です。

ただし、唐菓子は、最初は、天皇周辺や、たとえば藤原氏の氏神の春日大社 など、高貴なところや神聖な場所でしか作られないものでした。

砂糖は、一般 的には甘味料ではなく、たいへんに貴重な高貴薬のあつかいでした。一般の貴 族たちは、木の樹液からとる『甘葛（あまづら）』を珍重していました。枕草 子には、甘葛だんごが登場します。しかし、庶民にはまったく縁のない世界で あったのです。

【茶の伝来と平安・鎌倉時代の和菓子】

最澄（伝教大師）は、9 世紀に遣唐使として中国に渡られ、天台宗を開かれ ました。そのとき、茶の種を持ち帰られ、茶を飲む習慣と方法をもたらされた といわれています。これが、日本への茶の伝来です。しかし、茶は、宗教的に 使う、貴重な薬としての位置づけで、まだ、お菓子との関係は始まっていません。

また、今のお抹茶という粉茶を日本にもたらしたのは、鎌倉時代の十二世紀後半に、禅宗を南宗から伝え、臨済宗を開かれた栄西禅師です。現在の茶道の 濃茶の始まりは、この粉茶を茶筅で練る、宋代の点茶法であるといわれます。 このとき、喫茶とともに食す点心

も伝えられ、これが今の羊羹や饅頭の起源で す。

茶道とともに発展した、日本の和菓子の伝統の始まりがここにあります。

点心とは、肉を使った軽食です。

たとえば、なんと、オリジナルの羊羹は、 羊肉のスープだったのです。

しかし、肉食を嫌った日本では、小麦や小豆を使 って､喫茶の点心を作りました。やはり、塩味のものが主流です。

武家や寺社階級への砂糖の紹介と和菓子の登場

鎌倉時代の点茶の点心として発達した菓子は、室町時代に入ると、武家社会 への禅宗の広がりとともに､普及していきます。

【室町文化と砂糖】

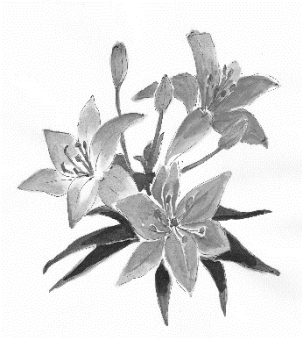
日明貿易によって､お菓子の落雁が、中国から伝来したのもこの時期です。

足利将軍家が、寺院の僧侶を招き、甘い蒸し羊羹（寒天を使った練り羊羹は江戸後期）を供した記録もあります。

したがって、室町時代には、甘い和菓子が流通し始めたといえます。そして、狂言の『附子』にあるように、庶民も砂糖の存在を知るようになっていました。また、饅頭は、東福寺の開祖が博多へ伝えたのがはじめといわれています。

（次号へ続く）

誕生カードをお贈りしました



誕生カード担当　M.ロザリア綾

「わたしの目にあなたは価高く､貴い」（イザヤ書 43 章 4 節）

梅雨が終わると暑い夏がやってきます。会報が届くころにはどんな天候になっているでしょう。災害のない、良い夏であるように祈ります。皆様、どうぞお体を大切にお過ごしくださいね。

４月、５月、６月生まれの皆さんにカードを贈りました。下記の方々です。お誕生日、おめでとうございます！！

４月生まれ　T.S.さん､ K.K.さん
K.O.さん、S.T.さん、M.N.さん

５月生まれ　H.K.さん､ T.Y.さん
S.A.さん、M.S.さん

６月生まれ　K.N.さん､T.A.さん
H.S.さん、Y.H.さん、Y.N.さん
K.A.さん､ I.O.さん､ K.I.さん

講演会 「阿Q正伝」 第2回 (5/15)

魯迅

庄子佳代子

その日の講演は、ほとんど憶えていない。シスターが私たちの仲間のAさんは阿Qなのだと言ったのは憶えている。

「汪ちゃんはAさんを紹介するのに、“前科8犯”と言いました。それはないでしょう。」とシスターは追求していた。私は、前科のある汪さんだから、Aさんの前科をなんとも思っていないから、そう言ったのかな？とぼんやり、考えていた。

前の机には、かえるPJの記事が載っている「週刊フラッシュ」「フライデー」「東京新聞」が置いてあった。東京新聞に載っていた汪さんのことばが心に残った。「これしか道はなかった。」過去を振り返って言い切ったことば。「こんなはずではなかった。」「もっと違う生き方ができた。」と悔いるのではなく、「これが自分」と、受け入れる潔さがある。「いいな」と思った。これもまた、一種の「精神勝利法」なのだろうか。

阿Qのように敗北を勝利と言い換えることは私もある。

辛い体験を「これでよかった」「だから今の私がある」と、自分の物語を紡いでいく。そのとき、自己欺瞞は少ない方がよい。自分の現実を冷たく眺められる方がよい。

汪さんの講演は後半、何故か漢字の話に盛り上がっており、私の想いは別な方向に向かっていた。

死ぬ間際にほんの一部だけでも

前略 汪楠様

はじめまして、先日は資料とお手紙をありがとうございました。

汪さんの正直な想いを書かれたお手紙を読ませて頂き、より一層、お仲間に加えて頂きたいと思いが強まりました。

汪さんがどういった経緯でプロジェクトの立ち上げに関わり、沢山の苦労をされているのか、理由を知りたいとも思いました。これは汪さんという人間に興味が湧いてきたからで、他人のために自分の人生を犠牲にした利他的な考え方ができる根本は何なのか、汪さんが私を認めて下さるなら学ばせて頂きたいと本気で思っています。

私は1967年生まれで、当所での受刑生活は16年目に入りました。刑期は無期で、現在、私とつながりのある親族は少ない年金暮らしの母親(80歳)だけで、無期刑には重要な身元引受人も保護施設(保護会)にお願いしています。

ストレスだらけの受刑生活なので、病気で死ぬのも珍しいものではなく、私が知るだけでも知人の無期囚が2人癌になり、処置が遅れて亡くなっていて、明日は我が身という不安の中で日々を送

っているので、考え方は利己的なものに成りがちで、利他的な考え方はちょっと難しい状況下に置かれていますが、決してこのままでいいと諦めている訳ではなく、自分が死ぬ間際に、何から何まで後悔だけで死んでいくのではなく、ほんの一部だけでも満足して死ねるだけの精神（魂）を高められたらと模索してはいるのです。そのヒントになるものが汪さんの献身的な活動の中にあるように思えてならないのです。

更に汪さん自身の死生観や宗教観などにも強い興味がありますので、嫌でなければ、ご教示頂ければと思っています。是非、お仲間に加えて頂けるようお願い致します。

嬉しかった誕生日カード

前略、

急に暑くなったと思いきや、また寒さが戻ったりと体調管理が難しい日が続いていますが、汪さんをはじめ、スタッフの皆様はいかがお過ごしですか。

まずはじめに、誕生日カードを送付して頂き、本当にありがとうございます。とても嬉しかったです。スタッフの方なのだと思いますが、忙しい中、しかも手書きで、この様に頂いたので、感謝しかありません。

刑務所という場所は、ほぼ同じ場所での往復なので、あまり景色が変わりませんが、和恵さんが代々木公園のバラの話を書いてくれていたので想像で楽しむこともできました。

ただ、この年になると年を積み重ねることに老いの気配を感じる様になりました。10 代の頃や 20 代と比べると全てにおいて後退しているように感じています。

しかし、TV かラジオでやっていましたが、自分の誕生日は周りからおめでとうといわれるけど、もう一つ感謝することがある。それはおかん、親父、俺を産んでくれてありがとうと親に感謝する日でもあるというようなものだったと思います。

これを聴いて確かにその通りだなと感じて、周りから祝ってもらうばかりが誕生日ではないと改めて気付かされました。正直、私もたかが誕生日カードだと思っている部分がありましたが、こんなに嬉しいプレゼントは年に一度だけだなと思います。

大切なのは想いであって、物や形のある物ではありません。一枚の誕生日カードに書いて下さった想いは短いですが、とても優しく笑顔ができるものでした。心より感謝します。本当にありがとうございました。

フードバンクとの関わり

田中　伸彦

昨年(2018)の秋。私たち"ほんにかえるプロジェクト"では汪楠事務局長の提案で、東京都台東区浅草橋にある 2HJ(セカンド　ハーヴェスト　ジャパン)から食品提供を受ける事にしました。そして私(田中)と井手シスターが 2HJ の事務所に伺い、登録申請をして来ました。

フードバンクとは食品加工業社、卸業者、輸入業者等から提供を受けた食品を、福祉施設、生活困窮家庭、路上生活者の元へ届ける活動をしている NPO です。

我が国では年間約 1700 万トンの食糧廃棄物があり、6 人に一人が十分な栄養を摂ることが出来ていません。いわゆる食品ロスの問題は、人々が知恵と労力を注ぎ込んで解決していかなければならない大きな課題の一つであると思います。月に一度のペースで 2HJ から受け取った食品は、"ほんにかえるプロジェクト"の活動に無償で協力してくださる方々や、路上で暮らす人々に届けています。

手紙の送付について

この度、
神奈川支部を新設しました。
神奈川支部では以下のことを
行います。

預かり金の管理
アマゾン購入代行
検索等の依頼

住所：〒214－0021
神奈川県川崎市多摩区宿河原
2-44-10-102　庄子佳代子方
ほんにかえるプロジェクト

・現金書留、切手などの金券、及び依頼を含む手紙は上記神奈川支部宛お送りください、

本部事務局（〒134-0003 東京都江戸川区春江町 5-15-31
ほんにかえるプロジェクト）では、書籍の寄付、入会申し込み、依頼を含まない問い合わせ等の手紙を受けつけます。

外部交通の願箋提出時は以下の個人情報を登録してください。
庄子佳代子　PJ 総務担当
1950. 8. 27 生　上記住所
職業：団体職員

お間違えの無いように願います。
よき交わりとなりますように。

12 年　文通している死刑囚 Y 君からズボン 2 枚と腰痛で使用しているコルセットが送られてきました。ゆうパックの箱を開けたら幽かに体臭を感じました。命を感じました。そこに息子がいるように思われました。1 日 1 日大事な命です。誰にとってもおなじことですが、刑を受けている命です。確定して8年になります。8 年目に外部交通が許されてやっと面会できました。その時「お母さんの教会でミシンうまい人いる？ズボンとコルセットを繕ってほしいんだ」遠慮している。「うまい人は確かにいるけど、私が繕うよ。一番下手だけどね。」私は裁縫が下手。出所して 6 年になる T さんが作業ズボンの破れにミシンかけてくれと言ってきました。私が時間かかっていると「僕がやるわ」と言って荒っぽく素早くやってしまいました。刑務所にいた人は皆さんミシンが上手です。

それにしてもY君はよくもボロボロになるまで着たものです。コルセットも伸びて役にたたなかったでしょう。

死刑囚は命で償うのだから、詫びる必要はないと言っている人もいれば、心から詫びて、一所懸命作業をして、寄付している人もいます。日本から死刑がなくなり、心から被害者に詫びる人になっていただきたいです。

＊モノクロカット募集　サイズＡ６以下

אִיקוֹ

ほんにかえるプロジェクト
会員募集

正会員年会費　（10 月～9 月）
3000 円

寄付もよろしくお願いいたします。

振込先
ゆうちょ銀行 10160－86239211
他行からの場合
ゆうちょ銀行 018 支店
（普通）8623921
口座名義　ほんにかえるプロジェクト

ボランティアスタッフ募集
在宅のままできる
パソコン入力者・文通スタッフ

自宅住所は公開しません。プライバシー保護に細心の注意をはらっています。

かえるプロジェクトの
出版物・印刷物

汪楠著「我的童年」	500 円
汪楠著「獄中書簡」	500 円
絵ハガキ 1 枚	60 円
絵入 A5 便箋 10 枚	100 円
絵入 A5 便箋 10 枚 名前入り	150 円

売上金はPJ の活動資金になります。

発行所
〒134-0003
東京都江戸川区春江町 5-15-31
ほんにかえるプロジェクト事務局
電話　080-8811-5465